



若木

2017年6月1日 No. 3

町田市立町田第五小学校
校長 五十嵐 俊子



「まちご」の子供たちを育む学びの場

校長 五十嵐 俊子

◆「まちご」の豊かな自然とのかかわりから育む

正門前のビオトープや花壇の草花は、季節の変化を伝えてくれます。いつしか足が生えて池を離れたオタマジャクシ、メダカとその稚魚の群れ、ギンヤンマの産卵、スイレンの花。毎日池の周りに集まった子供たちが、小さな発見をして歓声を上げています。ボランティアの方が、空き缶で一輪挿しを作って、各教室に花壇に咲いている花を届けてくださいました。

先月の子供の国の遠足で、「シロツメグサ」を知らない子が多くいたことや、近隣の保育園の園長先生が、ダンゴムシの捕まえ方を知らない子が多ことを嘆いていらしたことを受け、この地域の恵まれた豊かな自然に、もっとふれあう体験を働きかけていきたいと考えています。身近な自然に興味をもってかかわることで、感性も豊かになります。



◆地域の温かさの中で育む

先月27日(土)、55周年記念運動会を無事に終了することができました。たくさん応援をいただきましてありがとうございました。全力で走り抜く姿、集中して心を一つに取り組み姿、笑顔いっぱいポーズをする姿に、声援と拍手をいただきました。会場の応援の力は、子供たちの「自分を見てくれている人たちの応援に応えたい」という気持ちとやる気につながりました。どの学年の演技も、本番が一番の出来ばえとなり、達成感に満ち溢れたすがすがしい表情を見せてくれました。本番に至るまでの練習過程を大事に指導してきましたが、改めて応援の力の大きさを感じました。

6年生を中心に高学年の児童は、運動会の係の仕事もがんばりました。「自分のために」だけでなく「みんなのために」活躍する体験でした。これは、社会に貢献する初めの一步でもあります。

運動会終了後は、PTAの方をはじめ、たくさん保護者や地域の方が片づけを手伝ってくださいました。本当にありがたいことだと思います。「いつも子供がお世話になっています。」「まちごの小学生から元気をもらっています。」「自分もこの学校の卒業生だったんですよ。」「いつも校庭を使わせていただいてありがとうございます。」等々の温かい言葉や笑顔をたくさんいただきました。この「まちご」の地域が、子供たちにとって、いつも変わらず応援してくれる人たちが存在する場所、安心してがんばれる場所であることをうれしく思います。



優しく下級生の世話をする
六年生 徒競走

◆日々の生活や授業の中で育む

先日、約30年間続いてきた大学入試センターに変わって、2020年度から実施される新テストの問題例が公表されました。知識偏重から思考力や表現力を測る入試への改革が始まります。この入試改革は、自ら課題をもってその解決策を見出したり、他者と協働したりする資質・能力をつけていくための教育改革の一つです。これからの時代に必要な力は、自分で考えて行動する力です。多様な価値観や背景を認め合い、自分の能力を発揮して他者に貢献していく、そういう主体性を育てる学びの場が必要になると言われています。

運動会という大きな行事を終えた今月は、日常の授業を充実させていきたいと考えています。自分の考えを表現し、仲間との対話を通して、さらに考えを深める授業を目指していきます。

個人面談、保護者会も始まります。自ら考えて主体的に行動できる子供たちに育てるために、保護者のみなさまと力を合わせていきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。